

支部のピックアップ(近畿支部)

大阪府貝塚市／CIVIL3（建コン協近畿他）で災害対策訓練実施

大阪府測量設計業協会、滋賀県測量設計技術協会、関西地質調査業協会、建設コンサルタンツ協会近畿支部の建設関連業3業種4団体からなるCIVIL3（大規模災害時の業務連携協定におけるチーム名称）は令和3年9月1日、自治体支援を主に想定して、近畿地方整備局防災室、大阪府貝塚市、近畿市町村災害復旧相互支援機構（事務局：近畿建設協会）と合同で災害対策訓練を行いました。

訓練は午前8時にマグニチュード9.1の南海トラフ巨大地震が発生し、和歌山県から兵庫県に至る近畿圏臨海部に津波が押し寄せる想定で始めました。貝塚市では高さ3.7メートルの津波を想定し、藤原龍男貝塚市長がWeb会議を通じて近畿地方整備局防災室に橋梁・地質分野の技術者とテックフォース（緊急災害対策派遣隊）の派遣を要請しました。さらに、自治体に技術者を派遣して災害復旧を支援する近畿市町村災害復旧相互支援機構に支援を求めました。



その他、近畿地方整備局災害対策本部へCIVIL3リエゾン（災害対策現地情報連絡員）を派遣したという想定で、そのリエゾンからの情報を、関係団体との情報共有し、さらに、近畿地方整備局から想定される要請に対応することなどを行いました。



現地調査は、貝塚市内の府道29号線と、2級河川近木川に架かる二色大橋と千石橋付近で実施しました。貝塚市が所有するドローン・クリケットフィールドではドローン飛行訓練を行い、被災状況映像、写真をSNSと災害情報共有システムを利用し、貝塚市災害対策本部と共有しました。

総括会議後の記者会見で藤原貝塚市長は「『備えあれば憂いなし』というが、備えがどんどんICT化していることを実感した。災害時は迅速かつ正確に状況を把握し、的確・適切な救援・支援活動を行うことが市民の生命・財産を守る基本だと改めて認識した。今後もCIVIL3と連携し安全・安心なまちづくりに取り組んでいきたい」と語りました。

CIVIL3を代表して建設コンサルタンツ協会近畿支部吉津支部長は「関係者が本番を模擬した形で訓練ができ、気づきの多いものとなった。ドローンなど機器の技術は進化し、鮮明な映像を撮れる。ドローンフィールドは技術の習得には非常に良い場所で、今後も有効活用したい。一方で、上手く情報共有できなかった部分もある。一刻も早く確実に共有できる方法を定める必要がある」と話しました。

※災害対策訓練の様子が、テレビ大阪でニュースとして放送されました。

<https://www.youtube.com/watch?v=g3VOenRBya8>